



## シンポジウム「養護実習」

### シンポジウムの成果と課題

座長：松本敬子 熊本大学教育学部

昨年（平成17年）の第1回シンポジウムでは、多様な養成機関の養護実習について、調査結果を含む発表によってその実態と問題点が明らかになった。

これらをうけて今回は、1) 養成機関側、2) 実習協力校の養護教諭側、3) 1)と2)をつなぐ教員養成実地指導講師の三者の意見を得るよう企画がなされた。

重要なことは単に「養護実習」の検討ではなく、「養護実習」を「養護教諭の力量形成」の過程としての位置付けで把らえ、考えることにある。この点、今回も企画に拠るところ、そしてシンポジストの一人一人の資質に負うところが大きく、これを十分満たすものであった。

#### I. 発表要旨

1) の立場で小林先生は「免許法改正後の教育と養護実習」と題し、専門科目の整理、臨床実習の充実が続く養護実習の単位増、事前・事後指導への努力が述べられた。また教職採用時の実習評価項目の一律化に伴う学習指導項目が加わり、評価面からも教科教育法設定を課題とされた。

2) の立場で岡部先生は「実習生と共に成長するために」、長谷川先生は「学校保健の夢を語りたい」と題し、明瀬先生は「これからの健康教育の在り方」として健康福祉の視点での養護実習を提案された。いずれも「学校全体が受け入れる」との全職員の意識作りから、自らの職務再調整等、大変な努力である。現場の養護教諭観は、養成や経験の違いもあり一律ではないが、ここではよく統合され、自らの職務開拓機会とさえしておられる。より良い養護教諭養成の責任感ばかりでなく、夢や可能性を感じ取らせ、将来を拓かせたい想いが伝わってくる。

3) の立場で橋本先生は「指導内容と学生の反応」と題して、自らの活動を教材化したものと学生の評価を発表された。養護教諭のイメージ把握、教職者としての自覚が伺えた。2年生でのこの設定は、早期に各教科と実際活動とを関連させ、意義をつかみ学びの方向

性が示されて目標の明確化、意欲化につながると思われる。

#### II. 協議のポイント

(1) 実習内容に関する問題(2) 養成の違いによる問題（指導教官と学生相方）(3) 実習目標の共通化についての3本の柱をたて進めることにした。

(1) の実習内容では①指導案に関して養成側の指導状況、この面の養護教諭の指導力量と再学習機会について②学生の教壇指導への興味の偏りを養護実習全体でどうとらえるか等保健指導の問題がクローズアップされた。

(2) についてはシンポジストの経験に基づいて実習生の印象を「短大系－基礎に忠実、謙虚」「4年制－教育・指導タイプ」「別科－看護に依る落着き、度量」「衛生看護科系－新しい看護知識」「保健婦養成系－社会的落着き」の表現でそれぞれの長所を指摘された。

(3) は、実習の事前・事後指導の重要性が養成機関、協力校の双方から出され、学習－現場実習－学習と有機的につながる理想が要望され、実践例が報告された。

#### III. まとめ

養成側の Needs に応える努力の在り方、協力校の理想追求の姿を示して頂き、また卒業生の実地指導講師任用の効果も明らかになった。フリートキング的進め方をしたことによるが協議の印象では、地域によって養成への Needs も協力校側の受け入れ体制も大きく異なる。従って今後は、解決すべき事項を焦点化し、より具体的・分析的な検討が必要であろう。

試みに「養護実習と教育実習」「養成機関の違いによる力量差」をあげてみる。前者には実習目標や実習の具体内容の問題や単位との関連、後者には養護教諭の将来像に関する養成基盤の大きな問題が含まれる。

いずれにせよ養成側と協力校側が額を寄せ合って話し合うこの機会が貴重であり、重要である。



## シンポジスト①

### 輝ける養護教諭に学生を託す幸せ

小林壽子 鈴鹿短期大学

第2回研究会のシンポジストとして、学生を送り出す立場での参加の機会を得、本学に於けるカリキュラムの推移や大切に保管されている養護実習での実習校からの評価をまとめ直す事が出来ました。現場からの所見やメッセージを改めて読んでいくうちに、如何に大切に温かく指導されていたかが今更のようによくわかりました。そして今回の受け入れ側の養護教諭の先生方のご発表を傾聴し、綿密な計画の基に、教育者として、背筋を伸ばし、養護教諭としての学校保健の専門家たる知識と技術とその上に何よりも子供達への真の愛情に満ちた先生方でいらっしゃる事に心打たれる思いでした。現場の養護教諭の先生方のこの様な胸を張り自信に満ち輝いておられる姿から、学生達は、自分達の選択と今後の進路を見定め、多くの事を自然に学べる機会である事が、シンポジウムを通して、よく理解出来ました。

その為にも養成機関では、専門性の教育と幅広い教養、そして何よりも人間性を深め、教員としての資質を掲げる教育の責任を痛感致しました。2年間でのカリキュラムは過密であります。講義、実習、演習とを学びながら、たえず出す課題もこなしていきます。これらの学ぶべきものを自分自身のものとした時こそ、現場の輝やける養護教諭の先生方の後に続く事が出来ることでしょう。

## シンポジスト②

### 力量形成について考える

橋本淑子 岡山県久米町立久米中学校

今回のシンポジウムで、シンポジストを体験させていただいて、改めて現職を含む養護教諭の力量形成について考える良い機会となりました。私は、自分が卒業後、現場で試行錯誤してきたことを元に、実地指導の立場から発表させていただきましたが、「養護実習」だけでなく、現職としての力量形成についても重ね合わせて考えてしまいました。

今回のシンポジウムの内容は、養護教諭の力量形成という視点からみると、「養護実習」

に限らず、現場での継続的な研修にも引き継がれるべきだと考えます。例えば、養護教諭の力量に関わって、「指導案の作成」が話題になっていましたが、現場では、養護教諭も学活や道徳の指導案作成に関わることが少なくありませんし、さらに、授業分析をし、自らの力量を評価し、高めていく力が必要です。保健室における対応等についても同様です。しかし、実際に、現場でこのような研修が継続的にできているとは言えません。私自身、このシンポジウムに参加させていただいて、今後、このような機会にもっと多くの現場の養護教諭が参加し、養成・卒業後の両面から論議できれば、養成課程における力量形成だけでなく、現場の養護教諭の力量を高めていくことにつながるのではと考えさせられました。

## シンポジスト③

### 熱っぽい空気に支えられて

— シンポジスト初体験記 —

岡部真味 大阪市立鶴浜小学校

「実習協力校の生の声を聞きたい」というご要望で、この研究会の存在すら知らなかった私になぜか白羽の矢が立って、はじめてシンポジストをすることになりました。

全国からご参加の先生方の前で話す程、価値のあるお話はできませんでしたが、できるだけ、地についてお話を心掛けました。現場ではこの程度の意識の人間が、悪戦苦闘しながら養護実習生を受け入れているという実態を、少しはお伝えできたかと思えます。

養成機関の先生方にとっては、手塩にかけて育ててきた学生が、たった数週間の養護実習で、どんな影響をうけて帰ってくるのか、とても心配されるころでしょう。実習に協力する学校の養護教諭も、誰しもかつては実習生だったわけで、可能な限りみのりある実習にと努力するのですが、結局はそれぞれの学校や養護教諭に合わせた実習にしかならないと思います。

しかし、養成機関と実習協力校の間のコミュニケーションを少しでも密にしていけることが、養護実習を充実させ、養護教諭の資質をレベルアップすることにつながるものと信じています。

今回、本音で話し合える場が設定されたことで、双方に有意義な刺激があり、私自身も養成機関の先生方の熱意あるお姿に、気持ちを新たにすることができました。不慣れなシンポジストでご迷惑をおかけしたことをおわびすると共に、貴重な場を与えて下さったことに感謝致します。

#### シンポジスト④

##### 新学力観と保健指導案の作成について

長谷川ちゆ子 西脇市立重春小学校

シンポジウムでは、「…人生80年時代と言われる長寿社会を迎えることになった今、みんなが、より健康に、そして生きがいをもって豊かに生きることができるように、その基礎づくりともいえる学校保健への大きな夢を実習学生と語り合いたい……」と述べさせていただきました。

また、学級活動における保健指導案作成についての問題提起をさせていただきました。学習指導要領が改訂され、新しい学力観に立った授業の創造が叫ばれています。子どもたちが、自然や文化、社会に進んでかわりを持ち、自ら考え主体的に判断し、表現し、行動する学習活動を重視し、その活動を支援することが重要になってきます。教師の指導観や子どもの学習観を含めて、これまでの指導や評価のあり方を考え直していかなければなりません。教師中心の指導から、より子ども中心の指導へと変わっていく必要があります。子ども自身が自らの健康について考え、よりよい健康行動を選択し実行できるよう、支援していかなければならないと思っています。保健指導案もそういった観点が大事になってきます。しかし日頃保健指導案を書く機会があまりなく、養護実習を受け持った場合、どのように指導していったらいいのか、戸惑いを感じます。現場サイドでも学習の場が必要だと思います。今後は、養護教諭の養成機関とも連携し、研修を積み上げ、指導力を高めていくことができればと思っています。

#### シンポジスト⑤

##### 共に学ぶ「健康福祉」のとらえ方

明瀬好子 神戸市立鷹匠中学校

会員158名に及ぶこの会の第2回研究会に、「養護教諭の力量形成」のテーマのもとシンポジウム「養護実習」に実習校の立場より意見を述べさせていただきました。

ご参加の先生方から寄せられた質問カードの各々に再び意見を述べ、報告としたい。

質問カードから

##### Q1. 事前指導の在り方

①教育の現状②家庭と中学生③体と心④生徒指導などガイダンスに加えたい。

実習生は「現場のありのままの姿」に学ぶ謙虚な姿勢が望まれる。

##### Q2. 最近の実習生の問題

「保健室運営」に係わる実態をアンケートで調査する傾向が多い。現場批判になりかねない。

##### Q3. 学校教育方針と学校保健

学校長を責任者としたその学校の教育方針は尊重したい。学校保健が一人歩きはできない。

##### Q4. 「健康福祉教育」の在り方

①地域保健行政との連携（教育実習の中に行事としてとり入れる一親の歯科検診・親のカウンセリング）②個のケーススタディの実際と理論③市衛生局・市教委とのタイアップなどである。

★

☆

★☆

☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆

★☆

★

☆

#### 参加者の声①

##### 「教育」と「養成」

坂本洋子 鹿児島純心女子大学

はじめに、私の発言に偏見があるかも知れないことをお許しいただきたい。看護系大学の教員になって未だ8ヶ月、どうしても現場の養護教諭の立場でシンポジストの発言や討論を聴いてしまう。日常、私は大学側の教員の中に、授業に対する旧態依然とした「養成」

的感覚と姿勢を感じ取ることが少なくない。1年目の学生たちの中に、大学での折角の濃い学術的講義にも拘らず不満が多い理由の一つは、教員側のその即効的養成的教育観に根ざした指導の姿勢に依るところが大と感じている。

今回のシンポジウムで発表された現場の先生方はいずれも「教育」をよく理解しておられる。新鮮で開発的な「教育的」視点と実践を提示されている。学校現場では、絶えず新しい教育の試みと評価がなされており、モデルとなるような優れた教師たちから学び取る機会が多いということだろうか。

## 参加者の声②

### 実習協力校の養護教諭から学ぶ

美馬 信 大阪女子短期大学保健科

「養護実習」は小・中・高の学校現場に負うところの大きい、むしろ大学側だけでは出来ない科目であるのでこのような研究会のシンポジウムのテーマとして取り上げて頂くことは非常にありがたい。養護教諭を養成している機関として、全国的な養護教諭の実習生の受け入れの現状、即ち、実務の具体的な内容、苦勞をしている点、仕事の難しさ・すばらしさ、学校における役割・位置づけ、創意工夫の様子、今の養護教諭がかかえている問題、社会の変化に伴う健康教育問題、実習生を受け入れる時の苦勞など多くの最新の情報は大変重要であると考えています。

幸い昨年度から堀内先生はじめ多くの方々の努力で全国養護教諭教育研究会が発足され、今回も最新の貴重な情報を得る目的で参加しました。

シンポジウム「養護実習」は養護教諭の力量形成を目標に、実習生の受け入れ側と送る側の立場の現状を研究・討議し、よりよい養護実習ができるようにとの企画で行われたと認識しています。

今回、経験豊かな養護教諭の先生方による実習生を受け入れた経験と考への一部が発表された。実習生に対しては養護教諭の力量を高めるため、1) 研究授業に相当する養護活動の分析的研究・研修の必要性、2) 記録の大切さ、常に問題意識を持つことの大切さ、仕事のすばらしさ、などを実習を通して指導

されていることが窺われた。実習生を受け入れる立場としては、実習生受け入れを、職務を客観的に見る機会、基礎・基本に立ち返るよい機会と捉え、また自己飛躍のステップと捉え実習生の指導に努力されていることがよく分かりました。今の健康福祉教育の時代には健康教育のテーマとして心の健康、喫煙、エイズ・性教育、生活環境と健康、ライフスタイルなどが重要であることも指摘された。

さらに「学ぶ養護教諭に実習生は学ぶ」、「親教育も必要」など印象に残った言葉もあり、納得と収穫の多い研究会で、今後の学生の教育と指導の参考にしたい。企画および発表された先生方、有り難うございました。

## 参加者の声③

### みことな教育理念に敬意

西尾ミツ 聖徳学園女子短期大学

養護実習に関する今回のシンポジウムは、実習協力校の立場、特に指導養護教諭サイドからの発表があり、実習を依頼する側にとって、今後の参考となることが多くあったと思われま

す。免許法改正が、現場で望まれる養護教諭を養成するための一つの起爆剤となり、養護教諭の先生方にも何らかの動きが起きていることと想像できます。普段の養護活動が多忙を極める中でも、実習生のために養護教諭の職務の基礎・基本にそった知識・技能の指導ばかりでなく、教師として人間としての資質向上にまで配慮がなされ、橋本先生も岡部先生も実にみことな教育理念をもって学生指導に当たっていただいていることに深く敬意と感謝の気持ちを持ちました。

実習生個々の力量にもよりますが、協力校による格差もあることから今回のような研究テーマ等を出し合ってシンポジウム等を多く開催し、相互理解のもと一人でも多くの養護教諭の先生方がさらに研鑽を積み、向上してゆくことが大切と思われま

∞∞∞∞∞∞∞∞

∞∞∞∞∞∞∞∞

∞∞∞∞∞∞∞∞

## 研究発表

### A. 演題1～3について

<演題1> 全国養護教諭養成機関における  
養護実習評価の現状

全国養護教諭教育研究会世話人

堀内久美子（愛教大）ほか

<演題2> 養護実習における終日実習のあり  
方とその評価に関する一考察

安部奈生（北教大附旭川小）

後藤ひとみ（北教大附旭川校）

<演題3> 養護実習での対応記録の検討  
盛 昭子（弘前大）

### 概要と感想

座長：妹尾孝子 岡山県公衆衛生看護学校

全国養護教諭教育研究会に今年度加入し、第2回研究大会に参加した。今回のテーマが養護実習だったこともあり期待して参加した。学校保健、養護教諭教育の関係者が集う会に参加することは初めての経験だったが学ぶことの多い1日だった。都合で研究発表の座長を引き受けることになった。その任務を果たせたかどうか疑問であるが、担当した研究の概要等を紹介し、感想を述べたいと思う。なお、担当した演題3題は養護実習に関するものである。

<演題1> 本テーマは、研究会が平成6年8月に全国の養護教諭養成機関を対象に行った調査で、昨年の調査『養護実習の概況』に引き続き行ったものである。内容は、実習評価の実態について、養成機関と実習校の評定の関係及び成績評定の重みづけ、養成機関の成績評定の根拠となるもの、実習評価に関する問題点と改善策、評価表の評価項目の分析等である。評価の問題点の大半は評価の実習校間格差であり、その理由は評価基準の曖昧さあるいは不統一であることや養成機関での調整が困難であること。その改善策は、養成機関が評価基準、項目を検討し実習校へ提出

すること、実習校と連絡会を持ち評価の仕方を見直すことであることがあげられている。

しかし、改善策の記述のないものが46校（7割）また、問題点をあげた25校中改善を記述したのは12校という実態を明らかにしている。評価項目の分析については、内容から大別し7領域に分類を行っている。それは、1)養護専門領域 2)態度 3)学校教育全般 4)学級活動等 5)記録 6)研究 7)資質である。このうち、養護専門領域について、全評価項目数及び実習校の評定との関係をとらえている。実習評価の方法や評価項目の設定など、養護実習評価の実態は養成機関（四年制大学、大学特別別科、保健婦学校、短大専攻科一以上一種免許、短大系一二種免許）により違いがある。実習評価の問題解決に向けての努力の必要性と、評価項目設定の分析的な検討の必要性を今後の課題としている。

<演題2> 本テーマは、実習生が配属される大学附属小学校で展開されている終日実習のあり方と評価の視点を考察している。内容は、養護実習の概要と終日実習の内容、保健室実習での学習内容と終日実習の目標との関連について、終日実習の評価の視点等である。保健室実習での学習内容は、養護教諭の活動と関連があり、その活動を5項目（救急処置、啓蒙活動、事務処理、環境衛生、備品管理）に整理しそれを学習内容としている。保健室実習の総まとめである終日実習は、養護実習の総合評価にふさわしい内容であることが望ましい。実習校での保健室実習で学んだ内容を網羅した計画や実施内容が必要である。実習計画は、1週目から最終週にかけて時間経過を踏まえた実習形態や内容を考慮し、養護教諭の日常の活動とも対応した保健室実習の内容を踏まえて、総合評価の場にふさわしい終日実習の計画・実施を行うことが望ましいと結論づけている。

<演題3> 本テーマは、保健室を訪れた児への対応能力を高めるために、来室児童への対応場面を記録、検討、自己評価することを実習にとりいれた。この対応記録の検討・評価を行った。まず、対応記録をとることに

よって学生が自己の対応を客観視できたこと。養護教諭指導のもとに事例検討を行うことにより児童の発達段階に応じた対応のあり方を学びとっている等効果があった。対応記録の分析から、学生に共通した対応上の弱点（処置的対応行動、相談的対応行動、助言・指導的対応行動）が見いだされた。これらの結果から実習前の指導があまり活かされていないことが、今後は実習前の救急処置実習のロールプレイング等の指導を工夫することが必要であると結んでいる。

以上の演題発表に対して、いくつかの質問があり、会場から共同研究者の発言もあり活発な意見交換もみられた。養護実習の実態は養成コースによりかなり異なっていることが、これらの研究で理解できた。また、実習の場では、教育効果をあげるための工夫が色々となされていることを実感した。実習評価については、会場からも発言があったように、研究会として今後の課題として取り組む必要性を感じた。是非お願いしたいと思う。

現在、養護教諭の養成教育はさまざまであるが『養護教諭の養成教育をめざしている』という目的は同じである。養成機関に携わっている者、養護教諭として実践活動している者と関係者が一堂に集い、養成教育のあり方を研究しようとする熱意を実感できた貴重な一日であった。次回の研究大会にも参加したいと思っている。

#### 参加者の声④

山根 允子 湊川女子短期大学

3テーマ共、日頃マンネリ化してくる養護実習について考えさせられるテーマであった。

実習評価の発表にもあったが、養成校がどんな養護教諭を育てようとしているか、実習で何を学ばせるかを明確にし、実習校との間で十分な調整が必要であり、この点について、さらに養成校として努力すべきだと感じた。

第2・第3のテーマは、より質的な面で実習の効果をあげるための試みとしての報告であった。学生達の自主的な計画を元に実習が

実施されたり、対象との対応記録を分析し考察させたり、大いに学ぶものがあった。初めて、参加させていただき、実習の実施に当たって、様々な実情と問題が存在していることを知ることが出来た。この実情の中で実習する若い学生にとっては養護教諭としての第1歩であり、将来を決定する大切な期間である。それだけに子供との出会いを大切に、子どもを愛していける気持ちを育てていける様に努力していきたいと思った。

♪♪

♪♪

♪♪

♪♪

♪♪

#### B. 演題4～6について

＜演題4＞学生と患者とのコミュニケーションに関する調査研究—臨床医学・看護学臨床実習で学んだことを中心に—  
中村 朋子（茨城大学）

＜演題5＞臨床実習における患者の観察に関する検討  
郷木 義子（順正短大）

＜演題6＞養護教諭活動における救急処置の考え方、進め方—卒前・卒後教育を通して—  
小山和栄（岡山市立福谷小）  
石原昌江（岡山大）

#### 観賞と感想

座長：松嶋 紀子 大坂教育大学健康科学講座

＜演題4＞ 臨床実習は、5月から7月にかけて行われ、水曜日を除く平日の40日間に、約10診療科の病棟（1日）と外来（2～3日）（但し神経科は4日間病棟のみ）とを4～5人のグループでローテーションする。学生は病棟実習の日に患者と1～3時間のコミュニケーションを持つ。実習中に20人以上の患者とコミュニケーションを持ち、内容・所感などを実習記録簿に記録して、婦長等指導者に指導

を受ける。指導者から予め患者の説明を受けることができない場合もある。

実習記録簿によると、患者の闘病生活に接し、患者及びその家族から疾病・病気に対する考え方、不安などを学んだ。また、初対面で話がしにくいことや、どのような話をしてよいのか分からない経験もしたとのことだった。

〈演題5〉 学生は1年次が終了した3月に臨床実習を2週間経験する。この期間中に受持患者と7日間位の接触の機会を持ち、観察により患者に関する情報を収集し、臨床実習日誌に記録する。多くの学生が記録した項目は、年齢と性別、体温、診断名、脈拍、血圧、現病歴、排尿・排便の回数、清潔に関する方法等主に身体や疾患に関する項目であり、これらは看護記録からも得られる情報である。一方、記録が少なかった項目は、病気による家庭経済の変化、温度・湿度、健康保険の種類、ベッドの高さ・入院による家庭状況の変化、住所、家庭における役割等であった。今後収集した情報を援助活動に活かす方法を学ばせたいと結んでいた。

〈演題6〉 救急処置活動に関して、大学で受けた教育内容と、卒後の現場での実践状況とを整理し、更なる自己研修に活用しようとした。

卒前の教育内容：Ⅰ 講義と実習；①救急処置の進め方の基本を学ぶ ②母校の保健室訪問により養教の日常活動の実態を知る。③先輩養教の執務を参観することにより、健康問題の現状と対応を学ぶ。Ⅱ 卒業論文；研究の進め方を学ぶ。

卒後の自己研修の内容：①日本学校保健学会に発表 ②後輩の卒業論文に協力 ③岡山学校保健研究会で研究中

茨城大学・順正短期大学では、患者と直接接触させることにより、学生自身に学び取らせる機会を与えており、見学だけに終わりがちな臨床実習から、見事に脱皮された感が致します。郷木先生に対して、「看護の対象が

老人であるこの実習で、将来の児童の健康管理にどう結びつけていくのか」との質問があったが、他の養成機関でも共通する点であろうと思われますので、どなたか、病気の子どもの理解を深めるための参考例があれば紹介していただきたい。

小川先生らの卒後研修が、着実に実を結ばれ、頼もしい限りです。



### C. 演題7～9について

〈演題7〉 新入生向け授業内容の構築をめざして－「主題別ゼミナール」での試み－

大谷尚子（茨城大学）

〈演題8〉 養護教諭養成課程学生の附属高校の見学について

下村淳子（愛教大附高）

〈演題9〉 保健指導におけるコンピュータ使用についての一考察

大塚典子（横浜市立金沢中）

### 概要と感想

座長：楠本久美子 大阪教育大学教育学部  
附属高等学校天王寺校舎

〈演題7〉 大学設置基準の改定に伴い、今年度から養護教諭養成課程の教養科目に「主題別ゼミナール」が新設された。教官の指導・援助の下で、学生が主体的・自律的に活動できるゼミナール形式により、自主性・企画と表現能力等を養うことを目的とした本授業の分析と学生の反応についての紹介であ



る。学生には(1)グループ研究を通して自分らしさが発見できたか。(2)授業全体を通して自己にどんな評価を与えたか。(3)授業構成に対する感想・意見はどうか。その他、教員の立場からの感想と意見をまとめた。その結果、(1)友人との信頼感の芽生え、多様な意見の交換、(2)新しい自分の発見と自分らしさの発揮、(3)まとめかたの習得と共同研究の魅力、(4)段階をふんだ授業展開、友人との和の広がり等の学生の積極的な参加意欲が窺える調査結果を得た。

〈演題8〉 愛知教育大学養護教育教室の4年生の希望者30名による附属高校保健室の見学について学生の反応や意見をまとめた。見学の時期は1月27日～2月10日の6日間のうち、4時間、または、2時間で2～7人の学生が訪れ、保健室の家具の配置や救急処置の見学、書棚の閲覧、来室する高校生の観察、執務内容に関する講話と質疑応答を行った。その結果、学生の反応は、全員が「良かった」と答え、時期、時間も「適当」と答えている。質問には「救急処置」に関するものが多く、特に体験談、日常の救急処置で工夫している点などに関心が高かった。もっと知りたがっていた内容は「健康相談(精神面)の事例」「高校生の性に関する悩み」などで、学生は想像以上に前向きに食欲に見学していることが明らかになった。

〈演題9〉 養護教諭による自作ソフトの開発研究を通して、保健指導の充実性についての発表である。保健指導の教材として、ゲーム感覚できるコンピュータソフトを昨年から製作している。一作目は「喫煙防止」に関するもので、内容は三者択一、〇×印式、チャイム音の出るソフトで、二作目が「エイズ」に関する教材を選び、選択画面、〇×クイズ形式、モーフィング、じゃん拳ゲーム、音声による説明が入っているソフトを製作した。ソフト製作は時間的にも、技術的にも大変厳しいが、生徒にとっては興味のある教材のようで、教室に戻りたがらない生徒がコンピュータに触ることを条件に操作する生徒もいて、

コンピュータを統計処理以外に「教材」用として使用できるようにしたことが保健指導を実施する上で大きな収穫であったと結論づけている。

今回、座長を引き受け、研究内容を深く読ませていただきました。研究内容がそれぞれ奥深く、圧倒されてしまったというのが正直なところですが、自分自身にとって、非常に勉強になりました。

#### 参加者の声⑤

植田誠治 金沢大学教育学部

筆者は教師養成に携わっている。専門教育の中でディベートやディスカッションを組み入れている。学生の反応はどうか。最初恐ろしいほどに鈍い。多くの者が授業の中で口が開けない。自分の考えや意見を表明できない。簡単なウォーミングアップをする。小グループで活動する。そんな活動とともに経験を重ねるうちに学生は目に見えて成長していく。基礎的な学習や予習の作業は絶対必要である。その一方で自らの学習を企画したり自己の考えを表現したりする作業も不可欠である。そのためには自己概念や自己の目的意識を自ら見つめることが必要である。大谷先生と下村先生の発表は後者の作業に貴重な示唆を与えてくれる。大塚先生の研究には両者の作業への応用可能性が感じられた。ただし近い将来パソコンが教科書あるいはテレビなどと同じくらい身近なものとなるにちがいない。教科書やテレビのソフト(教育内容あるいは番組内容)の質が問われると同様にパソコンソフトの内容の質が問われることも忘れてはならない。



## 研究大会印象記

### 現場からの本音や裏話も

岡田加奈子 千葉大学教育学部

現場の様々な立場から、また養成側も様々な種類の養成機関から集まり、この会の意義が反映される顔ぶれでした。また、養成側と現場の養護教諭とが連携した発表も多く、シンポジウムは、現場からの本音や裏話もでて、興味深いものでした。産声をあげた第1回目から、さらに飛躍と前進が感じられ、回を重ねるごとにさらに研究が積み重ねられるような方向にいくことを望みます（人ごとでなく、自らもがんばっていかうと思いました）。抄録を4年生に見せたところ、来年から自分も出てみたい、という声もかなりあり、養護実習指導に悩んでいる卒業生にも、教えてあげようと思えます。また、総会に参加して、組織がかなりしっかりしていると感じました。

### 「力量とは？」

鎌田尚子 女子栄養大学

素晴らしい会場に、充実した研究発表が沢山集まり盛会でした。世話人・実行委員の皆様へ感謝します。

シンポジウムは、現場で指導される養護教諭の方々の実践と体験からの「養護教諭像」の理想を追求する人間教育として、後輩に気づかせ、育てていく熱意が伝わり、深い感銘を受けました。しかし、シンポジウムの限界とはいえ、それぞれの発表に終わり、本シンポの成果として、きちんとした位置づけや評価がなく、共通の課題が明確にならなかったことは、不満が残りました。

午後の研究発表との差異がみられない、それは何か？ 今回の特色は、卒前教育の課題を明らかにするべく、「養護実習を通しての力量形成とは何か？」について、フロアと協議しあって共通となりうる課題を明確にすることではなかったかと思えます。それは、とても難しい作業でもあり、今後、学生が2・3・4年生と異なる、養成の条件の違い、実習校の条件や選定の違い等の問題を乗り越えるコンセプトや知恵が必要に思えます。

「力量とは？」皆様は、どう考えますか。

## 研究大会後記

＜第2回研究大会を開催して下さった5人の実行委員の感想等と参会者に書いていただいたアンケートの結果＞

### 実行委員① シンポジウムで配慮したこと

石原昌江 委員長 岡山大学教育学部

近年、学校保健学会等において「養護教諭」に関する研究発表が増えてきており、なかでも、養護教諭の力量形成にむけて、その活動を分析・評価することの意味について理念的・方法的に取り組んだ研究も多い。

本研究会は、養護教諭教育に携わっている全ての関係者が調査・研究を行い、問題を共有しながら、養護教諭養成教育のあり方を探っていく全国規模の研究会である。したがって、その目標とするところは、養護教諭教育を養成機関の問題としてのみとらえるのではなく、卒前・卒後における臨地体験や研修等を通して、理論と実践のつながりを明確化し、「望ましい養護教諭像」にむけて、学ぶべき内容と方法を研究していこうとするものである。なかでも、研究大会におけるシンポジウムの企画は、本研究会の最も大きな仕事の一つであるが、今回、特に配慮したことは、

①養護教諭の立場を尊重し、現場の活動を生かして、理論の裏付けとなる実習のあり方を考える。

②大学と現場が共通の目標に向かって、それぞれが何をしていけばよいか、養護教諭の力量形成にむけて共に研究協議できる場をつくる。

の2点である。シンポジストの提言のなかに、協力校実習において、教育系の学生はどちらかという教育面に、看護系の学生は看護面により強い関心を示す傾向が認められることから、養成機関におけるカリキュラムの違い等を考慮し、今後さらに、実習の重点のおき方や事前事後指導の内容を検討する必要もある。

おわりに、本研究会にご参加下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

## 実行委員② 会場係を担当して

難波英子 関西女子短期大学

昨年、横浜市で開催された第1回研究大会、総会の際、次の開催は「大阪」ということから突然、実行委員会のご指名を受けました。あれから1年、実行委員長石原先生の指揮のもと、4名の委員は、それぞれ努力し、先日無事、責任を果たすことができました。シンポジストその他の依頼に対し、快諾いただいた先生方に深く感謝いたします。会場係の私の初仕事は、4月1日、早朝6時にアウィーナ大阪に出向き、9時に無事、研究会場予約をすませたことです。当日の会場設営については、特に努力を要しなかったのですが、全体として、追加資料の整理について、検討不足を感じ反省しています。委員会活動を通し、研究熱心な先生方との交流を持つことができ、私、個人としては、収穫の多い充実した1年間だったと、感謝している次第です。

## 実行委員③ 「抄録」を担当して

楠本久美子 大阪教育大学教育学部

附属高等学校天王寺校舎

日本学校保健学会の後日に開催されることになっていたのに、学会に直接・間接に携わっておられた先生方はお忙しい毎日だったとお察しする。私は抄録の印刷係を担当したが、学会のように、原稿が遅れるというような苦労もなく、抄録が難無くできあがったのは、他の実行委員や発表者の先生方のお陰と感謝している。経費節減のためにワープロ原稿を印刷したことは、有意義な方法であったし、業者の協力もあって、出来上がりが早かったことも幸いであった。大会当日は受付にいた関係で、初めてお会いする方や1年振りにお会いする方たちで賑わい、快活な笑いが絶えなかった。研究会を通して、多くの先生方と交流し、勉強できたことを心から喜んでいきます。

## 実行委員④ 戸感いつつ

大道乃里江 大阪教育大学

執筆に当たりまずは、第2回研究大会も盛会のうちに無事終えることができましたことを、実行委員の一員として御礼申し上げます。

第1回研究大会にて今研究大会の実行委員という大役をお引受けしましたものの、実際、私のような者に務まるのだろうか、というのが正直な気持ちでした。特に今研究大会より、実行委員が実質的に大会を運営するということで、実行委員の間でも戸惑うことが多くありました。結果的には、世話人の先生方のご協力に頼ることが多く、実行委員の自主運営とまではいきませんでした。最後まで暗中模索状態の実行委員で、多くの方々にご迷惑をおかけしたことと思いますが、今後は、研究会・研究大会の発展のために少しでもお手伝いできればと思います。

## 実行委員⑤ アンケート結果の集約

小西俊子 大阪市立新庄小学校

### 1. シンポジウムについて

#### 1) テーマについて

\*たいへん良かった・・・12/17

・テーマを見て参加したいと考えた。  
時宜を得た大切なテーマだと思った。

・「養護実習」は実習生の受け入れ側の現場の養護教諭と、送る側の養成機関の先生方が集まる全国養護教諭教育研究会のテーマとしては非常によい。現状を研究・討議し養護教諭の力量形成を目標に、よりよい養護実習ができるようにとの企画は、両者にとっても有益であった。

・その地区その地区によって多くの人々の発言があるし、現場の苦勞を知る上からも、今年度に準じてよいと思う。

\*深めてほしい・・・4/17

・数を減らして一つ一つを深めてほしい。  
・フロアの中での活発な意見交換が望まれる。

・前半の提案を受けて、後半の討議を進めてほしかった。座長がいるのに、形式や時間不足の制約で采配がしにくそうだった。事前協議が望まれる。

・テーマに引かれて参加したが、職務内容にもっと突っ込んでもらいたい。

・昨年からの継続テーマということで、

①これまでの成果を整理し、②今年を中心課題は何かをもっと明確にしてほしかった。

- ・現場の実践に焦点化した企画はよかった。個人的には学ぶことが多くよかった。しかし、シンポを組むねらいは何であったのか？ シンポジストの方々の御苦勞をねぎらいたい。きちんと位置づけ、共有すべきもの、残された共通課題が何か不明瞭である。不消化のままで満足できない。
- ・発表された先生方が、謙虚で好感が持てた。若いがすばらしい実践をされている。

## 2. 研究発表について

\*よかった・・・・・・・・・・8 / 17

- ・研究の仕方、発表とも参考になった。学会の先生より親しみが持てました。
- ・卒後の現職者の発表がもっとあれば良いと思う。
- ・養護実習をより有効にとの目的で色々の試みと事後調査をしておられ参考になった。

\*意見・感想・・・・・・・・・・4 / 17

- ・現職であるから、書いたものを読むのではなく主体的な発表を学んでほしい。
- ・発表が多いのはうれしい悲鳴であるが、6題位が能力の限界である。ポスターセッション等を使い、健康のため、休み時間がほしい。
- ・「主題別ゼミナール」での試みについて、養護教諭は各校1・2名で仕事をしなければならない。そのため自主的、企画能力等が、特に、必要ではないか。ゼミナール形式による教育で積極的で、生き生きした学生を育てたいと感じた。
- ・実習前に保健室見学、事後に異なる校種の保健室見学は、現場に不安感を持つ学生たちには、良いことではないだろうか。
- ・養護教諭によりコンピュータを利用した自作ソフトの作成は大変難しいであろうが、各地域の先生方が協力して作成し、相互に利用すれば、保健指導のよい教材となる。
- ・フロアからの発言時間が少なかった。
- ・発表の数が多すぎる。せつかくの発表なのでゆっくり聞き深める時間がほしい。

## 3. 昼食・懇談について

- ・時間が少なかった。

- ・レストランや、デパートが近くにあって不自由なく過せた。
- ・できれば昼食を弁当または懇親会風にして、その間に総会をしてはどうか。

## 4. 会場について

- ・交通の便よし・机あり・お茶サービスあり・快適。

## 5. 日程について

- |         |           |       |
|---------|-----------|-------|
| 1) 開催時刻 | 丁度良い      | 88.2% |
|         | 早すぎる      | 11.8% |
|         | (10時頃がよい) |       |
| 2) 終了時刻 | 丁度良い      | 82.4% |
|         | 遅すぎる      | 17.6% |
|         | (3時頃)     |       |
| 3) 所要時間 | 丁度良い      | 76.5% |
|         | 長すぎる      | 23.5% |
|         | (5時間くらい)  |       |

## 6. 開催回数

年に1回 100%

## 7. その他

- ・学会に引き続き勉強したので疲れた。学会開催と離してほしい。
- ・手づくりのアットホームな研究会として、やわらかいムードを大切にしてほしい。
- ・受付での会費・参加費の徴収が合理的でよかった。
- ・分科会の形を取り入れてはどうだろうか。
- ・実習に送り出す前の講義内容(改定後)にもふれてほしかった。
- ・病院実習の体験の発表は大変参考になった。
- ・配布プリントは講演順となっていないので困った。改善をお願いしたい。
- ・参考資料に発表者の名前も書いてくだされば幸いである。
- ・抄録を事前に送付していただければ一読して聞けるので理解しやすい。
- ・社会のニーズ、教育のニーズにあった養護教諭のあり方に向けて質的転換についての研究協議の場であってほしい。
- ・最近マスコミで大きく取り上げられている、いじめ・自殺等、命の大切さの教育は養護教諭も関わる問題ではないか。今後、養成機関におけるカウンセリング科目の現状と重要性が課題となるのではないだろうか？
- ・男の先生の参加が少なくて残念だった。

### 第3回総会記録

日時：1994年11月27日（日）12:50～13:30

会場：ホテル アウィーナ大阪

出席者：会員 171名中 92名。総会成立

司会：小笠原紀代子（筑波大附聾）

議長：石田トミ（国学院大栃木短大）

曾根睦子（筑波大附駒場中・高）

議事：

#### (1) 1993年度事業報告

①第1回研究大会：1993年11月27日

於：横浜国立大学（教）附属養護学校

参加者84名。

②研究調査：「養護実習に関する調査」実施。第1回研究大会にて発表。

③通信（第4号より名称「ハーモニー」）：第2～4号発行。

#### (2) 1994年度事業経過（報告）

①第2回研究大会：1994年11月27日

於：ホテル アウィーナ大阪

②研究調査：「養護実習の評価に関する調査」（対象：全国養護教諭養成機関）実施。第2回研究大会にて発表。

③通信「ハーモニー」：第5・6号発行

#### (3) 1995年度事業計画

以下の事項につき承認。

①第3回研究大会開催

②研究活動：総会で承認された研究テーマ・研究組織のもとに研究活動

③通信「ハーモニー」：年4回発行

#### (4) 1993年度決算・監査報告

承認（1993年度収支決算報告書の通り）

#### (5) 1995年度予算審議

原案通り承認（1995年度予算案参照）

#### (6) 『全国養護教諭教育研究会の運営と活動に関する申合せ』一部改正案提出。

承認。「4. 組織」

現行「事務局は代表世話人勤務先に置く。」

改正案「事務局は世話人会の定めるところに置く。」

改正理由：事務局設置に関して、より広い範囲で考えることができるようにするため。

#### (7) 第3回以降の研究大会

以下の通り原案を承認。

今後の研究大会の開催時期と開催地とに

ついて会員へのアンケートを行ったところ、別紙（総会資料、アンケート集計）の通り、回答者が85名のうち57名が「日本学校保健学会の翌日がよい」、54名が「日本学校保健学会開催地がよい」という結果であった。そこで、当分の間、研究大会の開催時期・開催地は日本学校保健学会と関連させていく。

#### (8) 研究テーマ

以下の通り原案を承認

研究テーマの「ハーモニー」での募集に対して応募された4件について世話人会で協議し、提示した以下の原案を承認。

テーマは「養護実習における能力の育成」とし、研究組織は「研究参加者をもって研究班を組織する。研究班発足までのとりまとめは大谷尚子世話人（茨城大学教育学部）が行う」とする。

#### (9) 役員改選

現世話人の任期（1995年3月31日）満了につき、次期世話人及び会計監査の選出。

以下の通り立候補のあった世話人7名と会計監査2名を承認。任期は2年（1995年4月1日～3月31日）

世話人

大谷尚子（茨城大学）

小笠原紀代子（筑波大学附属聾学校）

小林壽子（鈴鹿短期大学）

曾根睦子（筑波大学附属駒場中・高等学校）

中川優子（横浜国立大学教育学部附属横浜中学校）

中桐佐智子（順正短期大学）

堀内久美子（愛知教育大学） 以上7名。

会計監査

藤井寿美子（愛知女子短期大学）

盛 昭子（弘前大学） 以上2名。

#### (10) 第3回研究大会について

議案(7)の決定をもとに、第3回研究大会を千葉市または周辺において開催する。

実行委員長に小林冽子会員（千葉大学）  
実行委員に石田トミ会員（国学院大学栃木短期大学）と鎌田尚子会員（女子栄養大学）とし、以後、役員・実行委員の推薦により委員若干名を追加する。

（記録：曾根睦子）

☆ 世話人会等の活動は次の通りです。

1. 第12回拡大世話人会

日時：1995年1月8日（日）

10:30～16:30

場所：名古屋市勤労婦人センター

出席者：世話人7名（次期含む）、

第2回研究大会実行委員4名

第3回研究大会実行委員2名

内容：第2回研究大会の総括と第3回研究大会の企画

2. 第13回世話人会開催予定

日時：1995年3月5日（日）13:00～

場所：筑波大学附属駒場中・高等学校

内容：日本教育保健研究会シンポジウム

「養護教諭に求められる力量」

（1995.3.25）での養成側からの発言について

3. 第14回拡大世話人会開催予定

日時：1995年4月2日（日）13:00～

場所：筑波大学附属駒場中・高等学校

内容：第3回研究大会の企画・運営の大綱

☆ 養護実習の研究論文が掲載されました。

当研究会の1993年度の事業として行った養護実習に関する調査研究の論文が次の通り「学校保健研究」に原著として掲載されました。研究会の研究結果が公に表われたものといえます。

著者：大谷尚子（茨城大学教育学部）

中桐佐智子（順正短期大学）

論文名：全国養護教諭養成機関における養護実習の運営について—現状と今後の検討すべき課題について—

英文論文名：How to Conduct the Exercise in the Educational or Training Institutions for School Nurse-Teacher in Japan: The Current Situations and Problems Which Should be Solved

掲載誌：学校保健研究（*Jpn J School Health*）第36巻第8号 567-577頁 1994

発行所：日本学校保健学会（Japanese Association of School Health）

（堀内久美子）

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

さらなる研究の前進をめざして

大谷尚子 世話人（茨城大学）

養護教諭の教育に関わる研究会として発足した本研究会も、丸2年余りが経過致しました。この間、2回の研究大会を開催し、各会員がそれぞれの職場での取り組み（教育実践）や研究成果を紹介しあい、研究の交流をはかることができました。またあわせて、全国の養護教諭養成機関に本研究会設立をお知らせしながら、養護実習に関する実態調査を実施し、その結果を研究大会で報告することもできました。少しずつ、研究会として歩み始めています。

そこで、さらに一歩大きな前進をするために、研究会として、研究班を設立致します。養護教諭教育に関するテーマを選定して、会員が共同で協力しながら研究を推進していくための組織です。会員の多くは各職場で孤軍奮闘していると思いますが、ここでは意気投合したり真剣に意見を交わせることができる仲間がいて、協力しながら研究を進めることができるのです。テーマは会員の希望を取り入れながら順次決めていきます。研究費の方は多くは望めないのですが、共同研究の仲間を得ること（共同研究の輪）は会員にとっては朗報と思います。

関心のあるテーマでしたら、どうぞ積極的に参加してください。また、研究したいテーマや本会として研究すべきテーマがありましたら、テーマ募集の際にはお知らせください。

第3回総会で研究班の設置（担当世話人：大谷尚子）と研究テーマが決まりました。

そこで……

**募集します！ 研究委員**

今年度のテーマは……「養護実習について」です。

2年間にわたって養護実習に関する実態調査を実施し、また研究大会のシンポジウムも養護実習を扱ってきましたので、全国の全容・概況は見渡せてきたのではないのでしょうか。次のステップとして、より具体的な指導内容に迫りたいと思っています。

研究内容→養護実習の目標—評価の方法  
—実習の内容—指導の方法

①養護実習をめざすこととは何なのか？

②その目標を達成できたという判定は何に

よってできるのか。

- ③学生はどんな実習を行えばその目標を達成できるのか。
- ④目標達成できるためにはどんな指導が必要なのか。

参考資料(たたき台):『これからの養護教諭の教育』 東山書房。P.90~

- \*研究期間→1995年 4月から 1996年 3月まで(予定)。
- \*研究委員の応募期限→1995年 3月25日
- \*応募方法→はがきで、氏名、所属、連絡先の〒と住所・電話番号(あればFAXも)を明記。本研究会事務局宛て。

.....

## 会員の声

### ホットニュース

#### 看護大学新設ブーム

中桐佐智子 順正短期大学

ここ数年、看護大学の新設が急増しています。文部省は、18歳人口が今後急減するため、大学の新增設の抑制策を打ち出していますが、保健福祉関係の増設を例外として認めています。そこで日本看護協会では、ここ数年来、事業計画の中の重点事業として看護基礎教育の大学化促進を掲げ、「1県1看護大学設置」へ向けての運動を展開しています。このような後押しにより看護系大学は、ここ2~3年、にわかに新設ブームが引き起こされています。

現在看護系大学は、大学は28校、短期大学は3年制短大63校、2年制短大14校、計77校あります。さらに、1995年4月には、大学は、一挙に10校増えて、計38校に、短大は5校増えて82校になります。大学の内訳は、国立大学は山梨医科大学、浜松医科大学、金沢大学、公立大学は茨城県立医療大学、長野県立看護大学、愛知県立看護大学、私立大学は国際医療福祉大学、東海大学、吉備国際大学、川崎医療福祉大学です。

順正短期大学と経営母体が同じであり、隣接して立地している吉備国際大学にも保健科学部に看護学科、理学療法学科、作業療法学科が認可されました。看護学科では看護婦、保健婦の養成と共に、養護教諭一種の養成を行います。そしてできるだけ近い将来、短期大学を卒業した養護教諭に対する一種免許の単位取得講座の開設を行いたいと考えています。この講座は開放された講座として、意欲

のある方の要望にも広くお応えしたいと考えています。参考になるご意見がありましたら、お聞かせ下さい。

## 神奈川県立衛生短期大学(専攻科)

畑中高子 神奈川県立衛生短期大学

神奈川県立衛生短期大学においては、昭和42年、全国で初めての2年制の衛生看護科を設置し、その中に看護コースと養護コースを設けて看護婦と養護教諭(2級)の養成にあたってきました。

平成2年9月「神奈川県医療審議会」による答申が出され、これを踏まえて「衛生短期大学・看護教育大学校の再編整備」を実施することになりました。この再編整備計画において専攻科に関する事項の指摘事項として、看護婦・保健婦・養護教諭(一種)の養成を中心として機能強化が挙げられました。それをうけて神奈川県立衛生短期大学養護コースで行われていた養護教諭養成を廃止し、看護教育大学校で行われていた保健婦・養護教諭(一種)の養成をやめ、衛生短期大学に専攻科を設置することになりました。つまり、保健婦・養護教諭(一種)の養成課程を厚生行政管轄から教育行政へ移行し、学校教育法の適用下に置き一層の充実を図ることとなったのです。

本学専攻科は平成4年より猪足し、高等学校卒業後、看護教育を終了した者を対象に1年間の教育を行い、所定の単位を習得した場合は養護教諭(一種)免許状と保健婦国家試験受験資格を取得することができます。学生数は40名でその内の10名程度が養護教諭志望の学生です。実習内容として前期に保健所の基礎の実習として1回の地区把握と3回の家庭訪問、学校実習として1回の学校訪問が組まれています。また、後期の10月に小学校または中学校2週間、養護学校1週間、アルコールセンター1週間、リハビリテーションセンター1週間、保健所3週間の8週間の実習があります。前半5週間の実習後は学内に戻り、実習場所4箇所の実習を結びつけた地域との連携等をテーマにした報告会を行い、後半3週間の実習に繋がっています。これらの実習を通して学生なりの養護教諭像保健婦像を考える基盤になっています。しかし、実習が後期なので教員採用試験には不利である、カリキュラムが過密で時間的なゆとりがないなど現実的な問題点も多いのが悩みの種でもあります。

第3回研究大会開催案内  
(第1報)

多数の方のご参加を

小林 冽子 千葉大学教育学部

第42回 日本学校保健学会が千葉大学で開催されることになりましたので、実行委員長をお引き受けしました。ほかに石田トミ先生(国学院大学栃木短期大学)と鎌田尚子先生(女子栄養大学)と中川優子先生(横浜国立大学附属横浜中学校)が実行委員になって下さっております。

シンポジウムやメインテーマについては、近日中に決まると思います。どうぞ、奮って応募して下さい。少人数の研究会ですので、発表者とフロアが近いということが大変よい点です。

千葉大学は東京からも近い距離にありますので、多数の方のご参加いただけるのではないかと期待しております。

記

期日: 1995年11月27日(月)

場所: 千葉大学大学院

自然科学研究科大会議室  
(千葉大学の西千葉のキャンパス内にあります。なお本課程 加藤博教授のお世話で借用できました。)

★企画についての要望等を事務局または第3回研究大会実行委員までお寄せ下さい。

★実行委員会本部(第3回研究大会事務局)

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33  
千葉大学教育学部養護教諭養成課程

小林 冽子

tel 043-290-2638

★ 阪神大震災 お見舞い申し上げます。

このたびの阪神大震災で被災された関係者の皆様に、心からお見舞い申し上げます。

会員の中には兵庫県南部地域在住・在勤の方もおられますので、消息が心配されましたが、ご無事は確認できました。しかし、突然身近な方を失って心の傷を癒しようのない方もおありかと思えます。また、自宅や学校の損壊、あるいは生活面の不自由さなど大変な思いで毎日をお過ごしのことと推察致します。どうぞご自愛くださいますように。

事務局から

☆ お願い

1. 会費納入について

1994年度会費未納の方には振替用紙を同封してありますので3000円を納入して下さい。もし、行き違いに送金の場合はお許し下さい。

2. 連絡先変更の場合の届けについて

勤務先・住所等が変更になった時は事務局までお知らせ下さい。会員番号を記して下さいとよりスムーズに確認ができます。連絡先変更の場合は宛名ラベルの様式に記入してお送りいただければ幸いです。

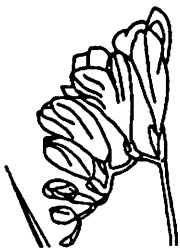
3. 「ハーモニー第8号」に原稿をお寄せ下さい。

「会員の声、ホットニュース」のコーナーへの原稿や特集テーマのご希望等を、お待ちしております。締切は4月14日です。

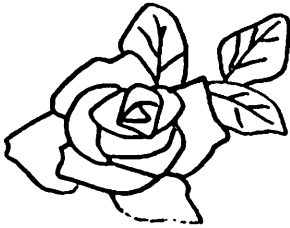
☆ 会員が174名になりました(1995.1.7.現在)。会員名簿追加分を同封します。

☆ 会員名簿の訂正をお願いします。

- \* 2頁10行目 井福朱實  
→ 安部朱實
- \* 4頁14行目 青森県 自干  
→ 青森県を削除
- \* 4頁15行目 (蓬田村立  
→ (青森県蓬田村立
- \* 7頁28行目 古沢桐子  
→ 村井志帆







## 編集後記

---

ハーモニー第7号は、第2回研究大会の特集号です。研究大会に出席できなかった会員には、あの時の会場の様子を伝えたくて、また、出席された会員には、今度はじっくりと味わっていただきたいと願い編集致しました。出来映えは、いかがでしたでしょうか。

また、研究会通信「ハーモニー」を通じて、会員間の親睦を深めていければと願い、多くの人々に登場していただきました。そのため、一人ひとりの字数が少なくなって思うように書けなかった方もいらっしやったようです。原稿をお寄せ下さいました会員の皆様にこの場でお詫びとお礼を申し上げます。また、この通信をきっかけに会員同士の話題が広がれば幸いです。

なお、今回原稿をお寄せくださいました方々には関西地区にお住いの方が多く、震災の被害はいかがかと案じながら編集作業をすすめてきました（大谷尚子）。

編集の効率を計って、原稿とフロッピーをお送りいただいたわけですが、小笠原があまり一般的でないワープロを使用しているために、MS-DOSでTEXTファイルしている2HDのフロッピー（3.5インチ・5インチとも）以外のフロッピーからは手持の機種に取り込むことができなくて、大谷会員と小笠原の間で何回かフロッピーが往き来しました。その経過の中で、MS-DOSでTEXTファイルに変換する作業等で大谷会員の家族にも協力いただきました。それでも再入力 of 原稿がかなりありました。注意深く入力したつもりですが、誤字・脱字等があるかもしれません。その際はお許しいただけたらと思います（小笠原紀代子）。

---